

「家庭の日」作文コンクール

CONCOURS

子どもが心豊かに健やかに育つためには、家庭や家族のあり方が何より大切とされています。青少年育成国民会議では、昭和41年から毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、親子のふれあいや家族の団らんを推奨しています。

青少年育成鳥取市民会議でも、この「家庭の日」の普及促進を図るため、昭和57年から、市内の小学校児童を対象に家庭や家族に関する作文のコンクールを毎年行っています。90点の応募があった中から、最優秀賞に選ばれた作文（原文のまま）を紹介します。



お母さんの右手は義手です。工場で働いていて、プレス機械で手をはさまれてしまいました。骨がくだけてしまいました。

わたしとお姉さん、お父さんで病院へかけつけた時、お母さんの寝間着から右手が出ていませんでした。お姉さんは、お父さんにすがりついて大泣きしていました。お母さんは、
「ごめん、ごめん。」
と、泣きながらくり返していました。

えっ、お母さん、こんなに大変な目にあってるのに、わたしたちのことを心配して・・・と思うとむねがつまってしまいました。左手をぎゅつとにぎりしめていました。

でも、退院するころには、すっかり元のお母さんに戻っていました。右手以外は・・・。お料理も洗たくも、今まで通りです。洗たく物をたたむのは、わたしとお姉さんの仕事です。お料理の時は、義手にナイロン袋をはめて左手で包丁を持って切ります。みじん切りの時だけミキサーを使います。右手しか使ったこと

のないお母さんが・・・。どれだけ練習したのだろう。大好きだったバレーボール以外は、何だっけします。車の運転もするし、わたしのバスケットのシューズを入れるふくろもミシンで作ってくれました。キルティング布地の大きくってオレンジ色のきん着ぶくろです。

「お母さん、ありがとう。」
と言うと、
「どういたしまして。さよ、気に入ってくれた。これでいい？」
と、明るく笑いながらこたえてくれました。指先が思い通りに動かないだろうに、一生けん命作ってくれたんだなあと思うと、これまで当たり前だと思っ

てしまっていたことがはかしくなります。感謝の気持ちが体のしんからあふれてきます。
お母さんは、以前のように右手でわたしの頭をなでてくれることもありません。右手をつないで歩くこともありません。でも、わたしにとって、お母さん自身が、ほこりです。はずかしいこと、右手をかくすこともなく堂々としています。バスケットの応えんに来

てくれた時、小さい子がお母さんの手を見て、

「なんで、おばちゃんの手はかたいだ？」と聞きました。お母さんはいやな顔をせず、

「まだ、おばちゃんじゃないで。おねえさんといいなさい。あのね、手をけがしてな、ほかの手をつけどるんだが。」と答えていました。わたしは、ドキッとしてなんでそんなこと聞くのと、その子を見てしまったのに。

うまく物事がいなくて、落ちこんでしまうことがあるけれど、お母さんが悲しみや苦しみを乗り越えたことを思うと、自然に、
「これくらいのこと、何だ!! しっかりしろ、さよ!!」
と、自分にムチ打つ言葉が出て来ます。

お母さん、ありがとう、がんばるよ。

「すてきなお母さん」

国府東小学校5年 岸田 冨代さん

- | | | |
|-----|---------------|----|
| 優秀賞 | 米井美森さん / 美保 | 3年 |
| | 吉岡七彩さん / 逢坂 | 5年 |
| | 坂本佳子さん / 西郷 | 5年 |
| | 太田優花さん / 国府東 | 5年 |
| 佳作 | 一村綾乃さん / 附属 | 2年 |
| | 竹尾いおりさん / 津ノ井 | 2年 |
| | 松尾さきさん / 湖山西 | 1年 |
| | 須崎夏未さん / 国府東 | 5年 |
| | 村島正子さん / 宮ノ下 | 6年 |
| | 長谷川るなさん / 浜坂 | 4年 |
| | 前田梨沙さん / 大正 | 5年 |
| | 佐藤尚也さん / 福部 | 4年 |
| | 石川卓也さん / 明徳 | 6年 |